

「カナダーその歴史と社会と教育」  
ジョゼフ・キャロン大使の基調講演  
学習院女子大学、2007年6月26日

皆様、こんにちは。 Good afternoon everybody, Bonjour à tous.

First of all, I would like to thank President Nagai for the opportunity to speak to you today.

Before my speech, please allow me to introduce myself. My name is Joseph Caron. I joined the Canadian Foreign Service, before all of you were born, in 1972, and have had the great pleasure of four postings to Japan in my career.

I have a personal affection for, and connection to, this country and consider Japan as the second home. My wife has spent a total of 21 years in Japan. All of my children were born in Japan. Even our dog and cat were born in Japan. Needless to say, we are happy to be back in Japan.

では、はじめに、カナダとその歴史、カナダの特徴を簡単に述べ、次に日加関係の歴史についてお話します。そのあとで、カナダの教育制度と、皆様にご利用できる教育の機会についてお話します。

## カナダの特徴

世界で2番目に大きな国土を持つカナダは、ロッキー山脈、ナイアガラの滝、バンフやジャスパーなど、広大な自然の風景でよく知られています。しかし、カナダのユニークな歴史、多様性と活力に満ちた多文化社会、活気あふれるアート、国際社会で果たしている重要な役割、そして世界有数の先進技術などは、まださほど知られていません。これらの特徴があいまって、今日の世界でカナダについて力強く良いイメージが作られているのです。

## ユニークな歴史

カナダは多くの意味で若い国と言えますが、数千年にわたり先住民族とその祖先たちの故郷となってきました。16世紀に、フランスとイギリスの探検家が大西洋岸に入植し、両国の抗争の末、全植民地がイギリスの支配下に入り、その支配は1867年まで続きました。1774年のケベック法の制定により、イギリスはフランスの住民に自国の文化、言語、宗教、法制度を維持することを許可しました。このた、1867年にカナダ連邦が誕生した後もずっと、フランス語は議会と裁判所で使用されました。カナダの多様性は、まずこうした歴史的背景を抜きに語ることはできません。

現在、カナダの政治機構は立憲君主制で、イギリスの女王、エリザベス2世がカナダの女王です。総督が国家元首として女王の代理を務め、現在の総督は、60年代にハイチから、移民してきたミカエル・ジャンです。前総督、香港生まれのエイドリアン・クラークソンに続き、移民一世の女性が総督に任命されたのです。ですから、皆さんも、カナダに移民して、将来、総督になれるかもしれませんよ。カナダ連邦政府のリーダーは首相で、現在は保守党のスティーブン・ハーパー首相が内閣を率いています。カナダは、日本と違って州にも首相や大臣がおります。連邦と州の権力の分配は憲法で定められています。

## 多文化モザイク社会

カナダの社会は世界中から来る移民によって、さらに豊かになっています。第二次大戦以前は、カナダへの移民の大半はヨーロッパから来ましたが、1945年をさかいにアジア、南米、カリブ海諸国からの移民がふえ、カナダの多文化モザイク社会をさらに豊かにいろどるようになりました。

こんにち、カナダの全人口の約5分の2が、イギリス系、フランス系、

先住民族以外の出身者で占められています。アジア系カナダ人の総数は、ほぼ450万人に上り、これは全人口の13パーセントを越えています。また、カナダ人の18パーセントは複数のぼごを持つか、英語またはフランス語以外の母語を話します。

1971年、民族と人種の多様性は、カナダのアイデンティティと国家遺産の基本的で貴重な特徴であると認められ、世界ではじめて多文化主義が国の政策として取り入れられました。

## アートと文化

カナダの歴史的基盤と現代的な多文化社会は、ユニークで活気に満ちたアートと文化の領域によく表れています。その結果、カナダの舞台芸術や視覚芸術、文学、映画などが世界中で賞賛をあげています。

セリーヌ・ディオーン、アヴリル・ラヴィーン、マイケル・ブーブレ、ダニエル・パウターは皆、カナダ人です。ジャズの世界では、オスカー・ピーターソン、ホリー・コール、ダイアナ・クラールもカナダ人です。また、キアヌ・リーブス、キーファー・サザーランド（「24」）、マイク・マイヤーズ（「オースティン・パワーズ」）、ジム・キャリーもそうです。

文学の分野では、「赤毛のアン」のルーシー・モード・モンゴメリ、権威あるマン・ブッカー賞受賞者でもある、マーガレット・アトウッドがおります。

カナダのモントリオールを本拠とするユニークなサーカス団「シルクドソレイユ」は1984年以来、エンターテインメントの世界に変革をもたらしています。現在「ドラリオン」が日本ツアー中です。2008年に

は東京ディズニーシーに常設劇場を開設することになっています。

## 世界におけるカナダ

カナダは、国連平和維持活動における世界の先駆者という名声を博してきました。この概念を提唱したレスター・B・ピアソン元首相は、1957年にノーベル平和賞を受賞しました。

これまで60以上のPKO 活動に参加してきましたが、現在カナダは、外交政策の柱のひとつとして、平和と紛争地域の安定と発展をかかげ、アフガニスタンにおける活動の中心的な役割を果たしています。

このように、カナダは多国間主義を信奉する国として国際社会からうやまわれ、G8やアジア太平洋経済協力会議（APEC）、北大西洋条約機構（NATO）、仏語圏国際機構など、世界のおもだった組織の一員として影響力を及ぼしています。

## 革新的な素質

カナダの広大な国土や遠隔地の冬の厳しい気候は、通信、医療、輸送、住宅、食糧生産など日常生活で直面する難題を生み出し、カナダ人はそれらを乗り越える創造性を培う必要性に迫られました。こうして培われた創造性が、カナダを様々な分野で世界をリードする先進技術国へ成長させる原動力となってきました。

アイマックス技術や、映画やゲーム産業で使われている特殊効果ソフトウェアの約80パーセントはカナダで開発されたものです。「パイレーツ・オブ・カリビアン」や「スパイダーマン」などの映画はいずれも、カナダのソフトウェアを使って制作されました。

カナダには世界最大級の携帯電話網があります。また、現在NTTドコ

モが日本でサービスを提供しているブラックベリーもカナダで開発された技術です。

## 日加関係

日加関係はおもに通商の分野で始まりましたが、1929年に外交関係が樹立され、ハーバート・マーラーが初代駐日カナダ外交代表として任命されました。1941年、太平洋戦争が勃発し、二国間関係はとだえしました。しかし、1946年にはカナダ代表部が再開され、1952年には完全な外交関係が復活しました。それ以来、両国は日加関係の基礎を築く「人と人との絆」を通して、二国間関係の推進に力を入れてきました。人々の交流をふやすための枠組みとして、友好・姉妹都市提携があります。現在、両国間に72を越える提携が結ばれており、教育交流、文化交流やビジネスにおける交流などが行われています。

そのほかにも、人々の交流の機会を提供するプログラムとして、日本政府の「語学指導等を行う外国青年招致計画（JETプログラム）」があり、毎年700人の若いカナダ人が参加し、英語を教えたり、地方自治体の役所で働いたりしています。また、「ワーキングホリデー・プログラム」のもと、毎年5,000人の日本の若者がカナダへ渡り、約1,000人のカナダの若者が日本を訪れており、両国の架け橋となっています。さらに、大学間の交流提携により、両国の学生達に学習の機会が広がっています。

経済の分野では、日本は米国、英国につぐカナダ第三の輸出市場です。また、重要な対加投資国であり、およそ600社の日系企業がカナダで事業を展開し、5万6千人以上のカナダ人を雇用しています。カナダは日本にとって天然資源の主要な供給国となっていますが、航空機やコンピューター・ソフトウェア、バイオテクノロジー、スポーツ器具

なども輸出しています。他方、カナダは日本から自動車、エレクトロニクス製品、その他の各種工業製品を輸入しています。

## **カナダと教育**

カナダは日本と同じように、質の高い教育を非常に重視しています。2005年、高等教育を受けたカナダの成人の割合は、米国、イギリス、フランスを含む他の経済協力開発機構（OECD）加盟国の中でも高い水準になっています。カナダは53パーセント、日本は52パーセントで、それぞれ上位を占めています。

カナダの優れた教育制度、充実した訓練プログラム、教材・施設は、国際的に高い評価を受けています。こうした評価は、初等・中等・高等教育、職業訓練、企業内教育や訓練を提供する公立・私立の教育機関、企業や団体のいずれにも共通しています。

## **カナダの教育制度**

多くの先進工業国と異なり、教育の責任は連邦政府ではなく、州政府にあります。各州の教育制度は、地域固有の特性やニーズによりいくらか異なっています。

カナダの基本的な教育は、公立学校、”分離” 学校（大部分はローマカトリック教徒）、私立学校で行われています。義務教育は、州により少し異なりますが、大体6歳から15、16歳までです。高校までの教育は、私立をのぞき公費でまかなわれ、カナダ人は無料で教育を受けることができます。大学やカレッジなど高等教育の学費は有料です。

## **小学校と中学・高校**

カナダの公立学校の生徒数は、約500万人です。州によっては、小学校

へ入学する前に、4歳で幼稚園に入ることができます。カリキュラムは、だいたい全国同じで、主要科目は日本で教えられている科目と似ています。カナダでは二つの公用語があるため、すべての生徒は小学校3年生から、どちらかの公用語の授業を受けなくてはなりません。また、多くの学校では、自分で考える力や分析する力を伸ばすための特別なプログラムが設けられています。

高校のプログラムは大きく二つの系統に分かれています。ひとつは大学進学に備えるコース、もう一つはコミュニティー・カレッジや専門学校への進学、あるいは就職に備えるコースです。さらに、学習障害のある子供のための特別プログラムも用意されています。

## 高等教育

1960年代までは、高等教育の大部分は、おもに宗教とのつながりがある私立教育機関であった大学で行われていました。しかし、高等教育への需要が急激に高まるにつれ、公立の教育機関が発達し始めました。現在カナダでは、200校ほどの専門学校やコミュニティー・カレッジが、約100校の総合大学を補完する機能を果たしており、学生の総数は約100万人に達しています。個々の教育機関により、学生数は1,000人未満から35,000人以上とそれぞれ異なりますが、学生のニーズに最もよく合った幅広い経験を提供しています。留学生の学費は、教育機関や教科課程により異なりますが、たいていの場合、米国や英国よりも安くなっています。

大学入学に際しては、高校の選択教科と成績が考慮され、入学試験はありません。最低要件は、州、教育機関、教科課程によって異なります。

カナダの専門学校やコミュニティー・カレッジは、特定の職業につくための訓練を提供しています。教科課程は専門技術を柱とし、実地体験を組み合わせています。カナダの学生の多くは、カレッジの学位に加え、大学でも学位を取り、可能な限り高水準の学識と、職業に必要な特定の訓練の取得に励んでいます。

日本と違い、カナダでは年輩と言いましょか、“じゅくねんの”学生をキャンパスでよく見かけます。カナダの大学に在籍する学生のほぼ4人に一人は、24歳を越えています。多くのカナダ人は一定期間、働いた後で、学校へ戻ります。これはカナダ人が「生涯学習」を重視していることを示しています。

### カナダが誇るもの

カナダのユニークな特質の多くが、教育分野にも良い影響を及ぼしています。カナダが特に誇りにしているのは、二つの公用語を持つ多文化社会として、第二言語としての英語とフランス語の指導における高い評価と豊かな経験です。カナダの広大な地形と遠隔地に点在するコミュニティーに対応し、遠隔教育、つまり「通信教育」が教育制度の基本的な要素となっています。カナダの教育機関の多くは、遠隔教育を積極的に展開しており、外国の学生にもこのような機会を提供しています。

### 世界に開かれた教育

カナダの教育・訓練機関に在籍する留学生の数は、2005年に、153,996人に上りました。この数字には滞在期間が6ヶ月以内の語学留学は含まれておりません。



カナダで学んだ留学生は、安全で清潔な環境、質の高い指導内容と最新の設備を賞賛しています。また、カナダの温かい多文化社会により、留学生はすみやかに学生生活に溶け込むことができます。

もうひとつのカナダ留学のアドバンテージは、「ポスト・グラデュエーション・エンプロイメント・プログラム」です。カナダの大学を卒業した留学生は、卒業後、3大都市圏では1年、それ以外の地域では最大2年間、大学の専攻に関係する仕事につくための、就労ビザを取得することができます。この制度を利用して、留学生が、カナダの社会に溶け込み、移民が促進されることにより、カナダの多様性はますます豊かになります。

### **カナダの教育網：国の財産**

カナダは、教育費に相当な予算が使われていることからわかるように、教育に力を入れています。国民一人あたりの公教育への支出額は、世界の上位にランクされています。カナダ人は教育への投資が健全な成果を生むことを信じているからです。カナダでは、高い教育水準が、生活水準を引き上げ、生活を向上させる機会をふやしています。また、カナダは知的な向上を社会が援助する国として知られています。

### **女性の指導者**

皆さんは女子大学の学生さんなので、一つ付け加えるべきことがあります。それは、カナダは男女平等の政策でも高く評価されていることです。最近、世界経済フォーラム（WEF）が男女の格差を調査した報告書で、カナダは世界14位にランクされました。これはG7諸国の中で第3位です。G7のトップはドイツの5位で、次は英国の9位です。米国は22位、日本はG7の中で最も低い79位でした。

2004年に、日加両国は外交樹立75周年をお祝いしました。その記念行事の一環としてカナダ大使館は、従来あまり女性の活躍が見られなかった分野でのカナダ人女性の貢献を浮きぼりにするために、「科学技術とビジネスにおける女性（WST&T）コンファレンス」を開催しました。その大会は大成功を収め、その後日加両国は2005年1月に、「科学技術とビジネスにおける女性の学術交流（WISET）プログラム」という、今までにない二国間の国際的な科学技術イニシアティブを立ち上げました。このプログラムは、カナダ大使館が先頭に立ち、カナダ王立学会、文部科学省（MEXT）、日本学術会議の協力により進められています。科学技術分野で優れているとともに、講演者としても評判の高いカナダ人と日本人女性の国際交流プログラムです。現在のプログラムでは2008年までに、毎年4回の交流が行われることになっています。

## 結びの言葉

今日の競争の激しい世界では、若い人々にとってはチャンスもありますが、同時に、今までにはなかったチャレンジもあります。21世紀の世界で成功するには、学業だけでなく、グローバルな物の見方、自分で考える力、知的好奇心が必要です。このような能力を身につけるのは容易なことではありません。その点で、留学は大変価値のあるツールです。

特に日本の学生の皆様にとって、カナダは理想的な留学先であると思います。安全な環境と多様な文化をもつ社会という特徴を持つカナダは、世界各国の人々を引きつけており、留学生にとって大変住みやすい所です。また、英語とフランス語の二つの公用語を持つカナダでは、留学生は一つの国にしながら、二つの言語を学習することができます。

ます。カナダの教育機関は、中学校から大学院までどこでも、質の高い教育を提供することで世界的に有名です。カナダの学校には、幅広い選択肢のある教科課程と、気分転換のために楽しめる、さまざまな課外活動が用意されています。

将来、留学を計画されている方は、是非カナダを留学先として考えてみてください。また、友人の方々とも今日的话题を話し合い、ともにカナダを留学先として考えていただければ幸いです。

皆様のご健闘をお祈りいたします。ご清聴、ありがとうございました。